

第45回与謝野町地域公共交通会議 会議報告書

■日 時 令和6年4月24日（水）午前10時00分から午後11時30分まで

■場 所 岩滝保健センター2階 会議室1・2

■出席者

山添 藤真	日高 政美	村尾 俊道	笹岡 洋一	山崎 哲典
西村 良久	小西 正芳	河邊 時寛	渋谷 卓司	山添 雅男
安達 幸三	飯島 徹	林 忠弘	川本 康博	川端 克久
柴山 進	辻 圭	植田 哲史	田辺 茂雄	市田 桂一

■代理出席者

井上 尋彰	中井 雄作
-------	-------

■欠席者

井崎 智満

■事務局

山口 企財課長	大江 企財主幹	田村 企財課長補佐	松本 企財主任	本田 企財主査
---------	---------	-----------	---------	---------

会議の要点

- 予約型乗合交通の令和5年度運行実績を報告。スマートフォン教室など利用促進に向けた取り組みや収支率の改善について委員から意見が出た。
- 丹海バスの路線再編（福知山線・峰山四辻線）について経過報告。丹後海陸交通（以下、丹海）が発表した再編内容について前回の会議で町から再考を求めた要望について、丹海からは全ての路線を維持するのは極めて困難な状況にあり、枝線（福知山線、峰山四辻線）の減便や廃止の変更はできかねるとの回答があった。
- 丹海の回答に対して、山添町長から次のとおり発言。運転手不足の状況を考えるとやむを得ず、今後においても改善の見通しは立たないということは理解した。しかしながら、住民の皆様方の生活への影響ということを考えたときに、最小限に止められるよう、丹海や沿線市町と力を合わせながら協議を進めていきたい。対応策については、次の会議で提案予定。本回答が町の方針ということで理解いただきたい。
- 丹海バスの幹線系統路線においても、与謝野町に関連する路線として伊根線、蒲入線、与謝線、峰山線の再編を予定している旨、担当者から説明を受けた。複数の市町村にまたがる路線でもあることから、京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会において協議することとし、次回会議において内容を共有することを確認。

■会議内容

- 1 開会
配付資料の確認、出席状況の報告
2. 会長あいさつ（割愛）

3. 議題

【報告案件】

(1) 令和5年度予約型乗合交通（よさの乗合交通）の運行実績について

○資料1について令和5年度運行実績を速報値として事務局から説明。主な意見は下記のとおり。

日高専門官：

住民に向けた周知の努力も必要と思う。収支率を見てもかなり低い状況であり、登録者数の267人が多いかどうかは個人的に分りかねるが、高齢者の方の利用はかなり多いと思う。特にアプリに対して高齢者の登録は難しい面もありハードルが高いと思う。事務局として周知活動を考えないといけないと言言があったが、具体的にどのような方策か現段階で構わないので聞かせてほしい。

事務局：

周知活動に関して、これまでの間、高齢者ふれあいサロンに職員が出向き、利用の呼びかけや、町営バスとの変更点などを繰り返し伝えてきた。本日は口頭での報告となり参加数等の実績データはお伝えできないが、そのようなかたちで取り組んでいる。また町の広報媒体を活用して広報しているが、それだけでは不十分であり利用が見込まれるターゲット層にこちらから出向いてしっかりと伝えることが重要と認識している。そういったところで社会福祉協議会、老人クラブ連合会、民生児童委員協議会等、関係者の皆さんに引き続きお力添えをいただきながら、取り組みを着実に進めていきたい。

村尾委員：

事務局から予約が難しいという話もあったが、全国でもアプリを使った予約システムというのは普及していて、上手くいっている地域では、自治体がスマートフォンの使い方の説明会を開催している。そもそもスマートフォンを使わない人たちが多いので、公共交通の使い方からスタートするのではなく、スマートフォンが便利、こんな使い方もあるというもう一つ前の段階からアプローチをすると広がる可能性があると思う。それから利用促進はこの間モビリティマネジメントという政策が全国的に進んでいる。これは利用する本人が自分の立場で一度利用を考えるとというきっかけを与えるということ。自分は何時に、どこからどのバスに乗るとどういう行動ができるかという具体的なプランを自分の頭の中で1回作る。これができると本当の行動に結びつく。情報提供により行動変容を促すというのがモビリティマネジメント。先ほどのスマートフォンの使い方教室の開催と、スマートフォンアプリを活用してさらに公共交通を活用した自分の1日の動きを想像してもらう。そこまで一通りやってみると、非常にイメージが湧きやすく、京都府内各地でもモビリティマネジメントをされている。婦人会や老人クラブの方々を相手に開催し、いろんな機会に皆さんが出かけていくと、行動に結びつくことがあると思う。あとは今回収支率が悪いというところに関して、テコ入れをしないといけない。協賛していただけるような企業の方々、先ほどにしがきという話もあったが、そういったところをいかに拡大していくのかというのは、行政の方で頑張らないといけないところと思う。

事務局：

アプリのご指摘について、当町としても昨年度から公式LINEを開始し現在2,000人近くの方が登録されている。住民で計算すると大体1割程度の方が登録されていて、それとも合わせて乗合交通のアプリの普及というのでも連携している。委員ご指摘の通りスマートフォンの講習会というのも当町でも20コマの開催をしていて、引き続き委員のご指摘を踏まえてしっかりと対応してまいりたい。それから行動変容についても例えば乗車体験の中で自分がどのように使えば便利になるのか、そういったところの見える化という部分をしっかりとやっていくことが非常に大事だと考える。最後の収支率については確かに必要な視点だが、当町としてはこの乗合交通というのは生活路線での運用であり、一定の公共投資が必要と考える。一方で、数値は相当低いので引き続き努力してまいりたい。

山添会長：

ただいま2人の委員からはこの間の取り組みに対してのご指摘だった。一つは対象者となりうる高齢者の方々や、公共交通を利用したいという方に対しての説明をいかに効率的に行っていくのかということ。それによってこの公共交通のあり方を自らの生活の中に組み入れていくというイメージを持つということが重要ではないかというご指摘だった。これについてはこの間私どもとしても、対面での説明会を開催しているが、より一層強化していくという方向性になろうかと思う。また、本日は予約型乗合交通をお世話になっている川本委員、西村委員にも出席をいただいているので、感想やこれからの運用に

おけるポイントも含めてご発言をお願いしたい。

川 本 委 員：

昨年(令和5年)の10月2日から運行を開始して約7ヶ月弱になる。この3月の実績を見て少し上向きになり、ほっとする思いと少しずつ浸透してきたという思いがある。この間、報告として事故トラブル等なく運行してきたので、まずは安全安心な運行を継続してまいりたい。今年(令和6年)の4月から一部エリアの変更等もあり、一定決められた内容の中で、ご意見いただいた内容を今後も事務局と調整検討しながら、多くの方にご利用いただけるように利便性の向上に努めたい。

西 村 委 員：

1年前にこの場で運行について承認をいただき、令和5年10月2日からの運行開始に向けた取り組みを進めたが、非常に不安を抱えながらのスタートだった。運行から半年間が経過し、事故もなく安全に利用者の皆さんを目的地へ送迎できた。運転手4人体制で週6日の運行を行い、運転手のご尽力で安全に運行できた。事務局からも話があったが、リピーターが多く、利用者からありがたいという話も聞いている。本日の報告にあったコミュニティバスの利用者全ての方が乗合交通に移行されていないことから、この隙間を埋めたい。利用されていない方が他の方法で目的地に向かうところを、乗合交通を利用いただく、なおかつ往復で利用してもらうような取組を進めていければ収支率の改善までは難しいと思うが、運賃収入の増加に繋がると思う。また、この場をお借りして報告すると、前回の会議で今年(令和5年)の10月1日以降は町のコミュニティバスの再編によって、加悦地域は今の桑飼地区の運営協議会を母体とした新たな組織を作り、そこで運行を担い、加悦地域の皆さんの移動手段を確保していくことを確認した。現状報告として、協議会の組織をきちっと作るべく、桑飼地区と加悦地区と与謝地区の3地区において、責任を持って運行にあたっていただける方が決まった。10月の運行開始に向けて、これからは運転手の確保をスムーズに進め、町の支援と協力をいただきながら邁進していきたい。当初の予定通り進んでいるということを報告させていただく。

山 添 会 長：

乗合交通を担っていただいている日本交通株式会社と桑飼地区支え合い交通運営協議会から現状や見通しについて話があった。何より安全に運行を継続されているということが、非常に嬉しく思う。一方で利用者の増加に向けての取り組みについては、2つの事業者の皆様方と我々も十分に協議を重ね、より一層利用者の立場に立ったルートの確保も含めた取り組みを進めていきたい。ただいまの発言に対して、事務局からいくつか説明があるのでお願いする。

事 務 局：

令和6年4月からの運行内容の変更について改めて報告する。時刻表の20ページの下部、山田エリアについて右側に石川エリアの一部乗降場移動が可能となった記載がある。このエリアは利用が少ない状況で、従来から山田エリアから石川診療所に行きたいと繰り返し要望があった。乗合交通のスタート時点では一定のルールに制約がある中で、エリアを飛び越えていくということではできなかったが、日本交通株式会社のご理解もいただき石川診療所をはじめとした商業施設等の石川エリアの一部地域に行けるようにできた。前回の会議で方向性の承認をいただき、今回実現したことを申し上げる。これに関しても、山田エリアのサービス拡充についてしっかりと周知を図っていく必要があるので、引き続き地元との連携等も含めて進めてまいりたい。また、14ページのご利用ガイド、よさの乗合交通予約センターの予約受付時間を記載している。調整の都合上、時刻表への掲載が間に合わなかったが、予約受付時間を平日9時から17時のところ、月曜日から土曜日までの8時30分から17時まで拡大した。運行日の土曜日も予約したいという利用者の声や、月曜日の利用が全体の週全体で見ても少なく、予約可能日を拡大することで改善を図るもの。8時30分としたのは朝一番の予約が多いことや、野田川地域の予約を考えると、少しでも利便性を高めるということでシステムの運営会社と協議し、受付時間を拡充した。こういった小さなところから改善をし、ご指摘いただいたご意見をもとにしっかりと進めてまいりたい。

山 添 会 長：

議題の報告案件「(1) 令和5年度予約型乗合交通(よさの乗合交通)の運行実績について」、皆様方からのご意見に対する質疑応答を重ねてきた。この点について委員の皆様方からご意見はどうか?なければ質疑を終結し、議事(1)についての報告とさせていただきます。

(2) 丹海バス路線の再編について

○前回の会議における町の再考を求める要望に対して、林委員（丹海）から回答。町長から回答に対する見解が述べられた後、事務局から資料2-1今後の再編への対応スケジュール案、資料2-2バス乗降調査結果について報告。主な意見は下記のとおり。

林 委 員：

2月28日の前回の地域公共交通会議において、町長から私どもがリリースした案件に関して、再考を求めるという要望があった。そこから現在に至る状況を報告し、我々の現在の考えを伝えさせていただく。運転手不足に関しては一進一退を続けている状況。例えば好転した点として今年になり退職希望の方で退職を取り辞めた方もいる。これは今回の賃上げや定年延長など、一定の労働条件を確保した姿勢が評価されたと思う。また養成制度といって時刻表13ページに、正社員のバス運転手募集中ということで掲載されている。大型二種免許を持っていない方でも興味がある方は入社して免許の取得に関する費用を補助する制度で、この制度を使った応募が1件あり、採用された方は免許講習に通われている。一方で好転していない点として、50代以下の方々と親の介護をされている方が非常に多い。最近になり1人が介護休職を取られ、3ヶ月ほど休暇を取られた。人数は減っていないが稼働がすごく落ちる。介護というのはいつまで続くか分からない中で、退職希望者を介護休職などの制度を活用して何とか引き留めて繋いでいる状況。年齢、体力面を理由に退職を考えられている方々は一定数いるが、応募はなかなかないし、いつ入るかも見えない。例えば元々バスの運転手だった運行を管理する人間に、運転手への復帰をお願いしている。急に復帰することはできないので今教習を実施している。運行管理の人間も運行に入る一方で、休日出勤も増えてきていたり、貸切バスは抑制したりして何とか運転手をかき集めて運行を回している。そのような状況の中、好転する兆しもない。現在我々が持っている全ての路線を維持するのは非常に極めて困難な状況にあることを伝えさせていただく。リリースにあった枝線の廃止や減便については、遺憾ながら変更はできかねると回答させていただく。現行の運転手で回せるような各種施策を行政の方々と知恵を出し合い、不便を感じられる方々に対して、何か対応策が打てないかどうかはしっかりと協議をさせていただくことを最後にお伝えするが、あまり状況が好転していないことに関してもご理解いただきたい。

山 添 会 長：

ただいま丹海の林委員の発言は、前回の第44回の地域公共交通会議を踏まえての本町からの路線バスの再編への再考に対してのお答えということだった。与謝野町として発言を申し上げる。丹海に再考を求めてきたが、計画通り減便そして廃止をしたい意向と認識した。運転手不足の状況を考えるとやむを得ず、今後においても改善の見通しは立たないということでもある。しかしながら、住民の皆様方の生活への影響ということを考えてときに、最小限に止められるよう、丹海や沿線市町と力を合わせながら協議を進めていきたい。その上で具体策などについては次回の会議において提案し、できる限りこの影響を最小限に食い止めていきたいと思っているので、委員の皆様方には町の方針ということでご理解をいただきたい。ただいまの議論について皆様方からも意見をいただくが、後ほどお聞きする。続いて、再編に係る減便、廃止の計画発表を受けての対応スケジュールと、3月に町独自で実施した乗降調査に係る結果について事務局から説明をお願いする。

【事務局説明概要】

資料2-1について

- ・減便、廃線の再編を前提とした対応スケジュール案。与謝野町に関係する部分では、6月の福知山線、峰山四辻線の減便、10月のコミュニティバスひまわりの廃止、4月の福知山線、峰山四辻線の廃止への対応が必要となる。
- ・地域公共交通会議は、5月下旬にも開催し、幹線の補助計画、フィーダーの補助計画を協議する。いずれも当町においては国の支援を受けて運行しているため、福知山線・峰山四辻線の再編に関すること、計画の中に必要に応じて盛り込むことになる。
- ・一方、幹線は、京都府北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会での協議が基本となる。この間の丹海からのニュースリリースを受けての各市町の対応について改めて協議する予定。

資料2-2について

- ・町独自で利用実態調査を実施した内容を報告。利用者の利用目的、利用実態を把握するため実施。福知山線、峰山四辻線の全便を調査対象とし、3月19日に調査を行った。基本的には与謝野町から隣

町へ移動する方を対象としているが、一部市内移動の利用者も回答に含まれる。返信用封筒での紙媒体とQRコードを読み込んだのオンライン回答により、福知山線は70%ほど、峰山四辻線は48%ほどの回収率となった。

- ・代替手段の有無を調査した結果、無しという方が約3分の1、一方、有るという方は3分の2だが、福知山線は鉄道、峰山四辻線は家族等の送迎という方が多い。
- ・自由意見の概要について、廃止への危機感や不安を感じている方は多い。丹海また沿線市町など関係者との協議で少しでも和らげる方策を検討していく必要がある。

村尾委員：

非常に難しい問題。運転手の確保が我々ができる一番いいやり方なのかもしれない。そういう意味では車両の小型化が必要だとか、一般的に言われていることだが簡単にはいかない。地域を挙げてそういう人たちの応援していく環境を作ることが大切。先ほどの説明を聞いて、高校生の移動手段が確保できたらそれでいいのかという議論になってはいけない。高校生の移動手段が確保されるというのも最低限守らないといけないのはその通りだが、それ以外の人たちの今までの利用者がゼロというわけではない。地域の人たちの移動手段がなくなるという問題。これは次の代替策、代替の交通手段を作っていくといけない時期がもうすぐやってくる。今までの丹海バスもあるので、これも避けて通れないが、次の段階としてはなくなった地域の人々の移動手段をどうやって確保するのかという問題は、今は移動手段のある他の地域でも必ずやってくるという認識でこの問題は積み上げていかないとはいけない。とりあえず方向性は出せてよかったと終わるのではなくて、本当にどうするのかということを真剣に考えないといけないタイミングにきている。桑飼の皆さんも頑張っている運行が根付いてきているので、そういったことも含めて、本当にこの地域全体をどういうふうにするのかを改めて考えないとはいけない。そういう厳しい状況になってきているっていうことを聞きながら思った。

山添会長：

ご指摘はごもっとも。我々としても丹海にも協力させていただく形で何とか盛り上げていきたい。その他の委員の皆様方がかたがたでしょうか？ないようなので、ここで一旦議論を整理する。まず1点目に丹海バスの路線再編については、一定やむを得ないという状況と理解したものとする。2点目に福知山線・峰山四辻線の再編については、本日説明の内容で調整を進める。3点目については、今後のスケジュールについても報告の内容で確認できたものと理解させていただく。本日説明の内容で、再編に向けた調整を進め、フィーダー補助金にかかる計画に反映し、次回の地域公共交通会議での補助申請に向けた協議を行っていく。以上で、本議事「(2) 丹海バス路線の再編について」の報告とさせていただきます。続いて議事4「その他」に移るが、丹海から路線バスに係る発言があると伺っているのをお願いしたい。

4 その他

○資料2-3 幹線系統路線バスの再編について丹海から説明。

【丹後海陸交通説明概要】

- ・幹線バスの再編について枝線と同様に運転手不足、2024年問題の影響によりバスの運行体制維持が極めて困難になっていることから、一定の再編が必要として下記のとおり計画している。
- ・伊根線：利用のない上宮津から郵便局までを短縮した路線、伊根線4という系統を新設。
- ・蒲入線：伊根町内の長延以降、丹後郷土資料館への乗り入れを取りやめ短縮し、伊根線へ振替。
- ・与謝線：16時以降の利用がないウイルへの乗り入れを取りやめて短縮。北部医療センターへ通院されている方で与謝方面への帰りの便の発出時間を遅らせることで診察や処方箋の受け渡しの時間が遅れても間に合うように変更。
- ・峰山線：土日祝の利用の少ない便の減便を行う。平日は現状維持。

林委員：

今の幹線の説明を聞かれてもわかりにくいと思う。例えば伊根線や蒲入線とか基本的な構成としては上宮津方面から伊根方面に行く路線だが、終着点が蒲入であったり伊根となっていて便名が変わる。また便名の後に数字がついているのも、例えば丹後資料館前に入る路線には別の路線系統をつけるというような形である。今回私どもの提案というのは基本的には幹線を守るために枝線を再編するという考え。先ほど弊社担当から説明があったが、幹線の中でも実情利用が非常に少ない便や停留所がある。そのあたりに関して今2024年問題等があり、運転手の拘束時間を短くする必要がある。短くすることで他

の路線においても、今回の再編内容は全体を見てもすごく小さなものだが、そういったことを組み合わせると、例えば今まで10人で出来ていたものが9人で出来るようになるなど必要な人員を少なくできることに繋がる。これだけで1人が減るとかそういうレベルでは全くないが、乗降量を見たときに非常に利用が少なく、再考した方がよいのではと今回提示させていただいた。

山 添 会 長：

ただいま丹海から説明があったが、皆様いかがでしょうか？先ほど幹線という話があった。この幹線については、複数の市町村にまたがる幹線系統であるので、関係する市町の意見を集約するというかたちで京都北部地域連携都市圏交通活性化協議会での協議事項となる。ただいまの報告を受け、与謝野町としての見解も持ち合わせながら、協議会で発言してまいりたい。その上で本町の地域公共交通会議においても、どのような議論があったか、そして結果についてどのようなになったかについては報告させていただく、あるいは協議をお願いすることになるかと思う。本件についての議論は終結とする。

山 添 会 長：

本日は運輸支局の日高専門官にも出席をいただいているということで、改めて会議全体を通じて、また全国の公共交通を巡る状況等について、我々に対して提言をお願いする。

日高専門官：

この4月から担当となる日高です。与謝野町地域公共交通会議においては地域公共交通計画を本年3月に策定公表しているということで、法定協議会という位置づけになっている。改めてお伝えすることもないが、言うまでもなく計画は策定がゴールではない。計画に定められた目標に向かい、しっかり取組を進めるということが最も重要。そういった意味では、今回の会議では官民間問わず活発な意見議論ができたことは大変有意義であったと私個人としては思う。地域交通は単なる交通分野の課題解決とはならず、まちづくりや観光、環境など様々な分野で効果をもたらすと認識している。この協議会の取り組みが、いわゆる豊かで暮らしやすい地域づくりに繋がることを期待したい。そういった中で様々な課題というのは十分にあることは承知している。先ほど来、丹海からも説明があったように、一番の問題は運転手の確保。いわゆる2024年問題というの大きな一因となっているが、丹海に限らずこの交通事業者も運転手の確保がかなり困難な状況と伺っている。さらに運転手の高齢化というのも進んでいて、中間層が全く空白というような現状の事業者が多数あるということも認識している。このような場合、どんなにいい施策を行おうとしても、運転手がいないと何にも実行に移せない。地方で知恵を振り絞って、関係者がこういったことをしようと計画をし、実行しようとしても運転手がいなくて全く機能しない。これが現実問題としてある。そういった中で運転手確保については事業者の努力はもちろん、官民一体となってこの問題、特に自治体でそういった取り組みをするということが大事だろうと思う。私ども運輸支局においても、本年1月にバス運転手の魅力発信イベントを開催し、約200名ほど参加された。今年度においても実施予定であり、その際はプレス等で発表させていただく。少しでもそういった問題の解決に寄与したい取り組みであり、実施しているということだけご認識いただきたい。地域公共交通会議は来月5月にも開催予定と聞いているので、次回以降も国からの情報発信をしたい。

山 添 会 長：

日高専門官ありがとうございました。それでは本日予定をしていた議事については、これにて終了とする。皆様方におかれましてはスムーズな議事進行にご協力をいただき感謝申し上げます。

事 務 局 長：

長時間にわたり熱心にご議論いただきありがとうございました。次回の地域公共交通会議の開催は、5月中の開催予定。これは京都北部地域連携都市圏公共交通活性化協議会の総会前に開催したいということで協議会の総会日程がわかり次第、事務局から正式に案内させていただく。以上をもって第45回与謝野町地域公共交通会議を閉会する。

以上